

、たくさんの♡が溢れるスポット、



チルした人の声

とても良い企画で良かったです！またやった方がいいです！！(10代 男性)

すてきなスポットでこんな風にゆっくりできるのが本当に素敵だと思います。

最近は何をするにもたくさんお金がかかるので、
こんな風にお金がなくても素敵な景色と友達と話せる空間を
提供していただける場所はもっと増えるといいと思いました。(10代 女性)

ゆるい雰囲気で居心地がよかったです。

私の地域でもあったら利用したいと思いました。(20代 女性)

スタッフさんが優しくてリラックスできる空間でした。(20代 女性)

友達ができて楽しい。(10代 女性)

子どもたちがいろんな経験をした！
子どもたちがもっと大人たちと話せる機会を！(30代 女性 お子様連れ)

イベントの運営を通じて今の生活に居場所ができるのであれば素敵な
取り組みだと思います。楽しそうに仲間内ではしゃいでる姿とってもいい！！
私の学生時代にはなかったな(元不登校より)。(20代 女性)

新しい取り組みで、SNSを活用して、『栄と言えば！』の
ところにできると思うので楽しみです。(10代 男性)

この活動の意図がわからなかったが、調べ、居場所がない
子たちにはぴったりだと思いました(`u `)(10代 女性)

I feel so happy to get this opportunities.
To feel the good fresh air and happy to see the beautiful
people around here. I like the setting and the set of the
event is so awesome. Thank you so much.(20代 男性)

、それが #栄でチルする？、



『あー、帰りたくない』

『音楽やってる！聞いてかない？』

『友達が欲しくて、来ました。誰か一緒に話してくれる人いませんか？』

『SNS見ました！あっ、動画に出てる人だー(笑)』

いろんな人がいて、いろんな人の思いがあって、
いろんな人の願いがある。
特別なことはしていません。
あなたにとっての居場所がただあるだけ。

アーティストによる音楽やライブペイントを楽しむもよし、
スタッフとのおしゃべりを楽しむもよし、
一人でぼーっと過ごすもよし。

あなただけの『チル』を過ごして、
明日からもあなたらしく生きていてほしい
ただそれだけの居場所

#栄でチルする？とは

2022年度に実施された『#久屋でチルする？』が場所と期間を変更して2023年度も実施。6月から3月まで月一回のペースで子ども・若者が気軽に立ち
寄れるオープン型のフリースペースを『サカエヒロバス』に開設。8月から9月にかけては2022年度同様、不安な気持ちの高まる夏休みの終わりと新学期
の初めにかけて10日間開催した。

キャンプチェアやベンチに座りながら、参加した子ども・若者同士で話をしたり、現場のスタッフと何気ない話をするなど楽しい時間を過ごしてもらう
とともに、悩みのある子ども・若者に対しては相談に乗り、本人の希望に応じて必要な機関等の紹介をする。



＼ 代表者のコメント ＼

2年目を終えて改めて考えてみた。＃栄でチルする？ はこの先どこへ向かうのか。

栄という街は若者にとってどんな街に見えているのだろうか。これまで名古屋の若者文化が生まれてきたのは紛れもなく栄だったと思う。今は街から生まれるのではなく、SNSなどから若者文化は生まれ発信されることが多い。バーチャルな居場所も出てきている現代で、あえて野外でのオープンスペースで居場所を作りたい。そしてそこから若者たちが自分たちの価値観や文化を発信できたら最高だと思う。

パブリックスペースでの居場所づくりはそうした思いに加え、もうひとつ大きな意味を持つと考える。それは若者だけでなく老若男女が使える場で、特定の誰かのための場所ではなく街を形作る上で必要な場所であるという視点だと思う。パブリックスペースはオープンスペースであり、誰もが自由に快適に利用できるものでなければならない。排除されるべきは公共の場所はこうあるべきだという固定概念で、その街を利用するすべての人を受け入れる場であってほしい。

チルでは、ゆったりくつろぐ人、飲み食いする人、人や街を眺める人、パフォーマンスをする人、会話する人、一人で物思いにふける人…そして私たちスタッフと会話を楽しんだり、一緒に何かに取り組める、そんなアクティビティが満載だった。さらに今年は様々なアーティストさんをお呼びし、「表現」してもらってきた。雑多な場所から生まれる新たな表現を見つけたかったという思いもあった。

結果は…

今年1年を振り返り、個人的には大失敗だった。これは良い意味での大失敗だ。小難しいことを考え過ぎ、本来ある人や街の力を信じてなかったのかもしれない。まちづくりの基本は人である。そこを行き交う人やそこで暮らす人が求めるもの、そこには子どもや若者も含まれていることを忘れてはならない。そして＃栄でチルする？は実験なのかもしれない。だからこそ失敗を続けても、その中から大切な何かを見つけていく努力が必要。

私たちは名古屋市と一緒に夢のある実験を今後も続けていきたいと願っている。そしてパブリックスペースでの居場所づくりに何らかの方向性が見えてきたら、それを他の地域にも広げていきたい。そこに生まれる様々なアクティビティは大きさでなく地域の文化を作り出し、私たちにとっての居場所になっていくと思う。

これからも失敗を繰り返しながら、参加してくれる人と一緒に楽しみたい。
進化し続けていくチルで皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。

一般社団法人 愛知PFS協会
代表理事 星野 智生



＼ 企画・運営に携わった若者の声 ＼



チルとは何ですか？

(皆、かなり悩む…)…あらゆる人がそこに混在していい自由な場所。言葉通りだと「ゆったり」「くつろぐ」みたいな感じだけど、それが起きやすい場を創り上げているイメージ。コミュニティづくりに近いけど、いつもある場所にはできないからイベントの要素が強い感じ。

若者はインスタみたいに自分を表現する場があると行きたい場になる。そこが安心安全であり、オープンな場であることがチルの存在意義。

チルの魅力

人が集まりやすく、遊びやすい場所にある、誰もが立ち寄れるのがチルの魅力！学校終わりの高校生に声をかけると「気になる」「行ってみよう」と来てくれる。声をかけると「チル知ってる」と言ってもらえたり、SNSを見て来たって人もいる。また来る人もいて、運営を手伝ってくれる。通りすぎる人もいるが、少しずつ浸透している感じが実感としてある。

チルの未来

シンプルに若者が何も気にせずたむろっていい場所が栄から広がっていくこと。あまり干渉しない、干渉されない環境に人が集まり、その人たちと創る場になるといい。若者が自分たちが良いことありそうって思っただけで行く場になる。いつもある場所になって地域に馴染む。週1回程度の頻度でみんなにとってチルがいつもある場になる。インスタのストーリーに上げようってなるような空間になる。スタッフがエゴサしてストーリーを上げ直す。そこに交流が生まれ、チルが広がっていく。そんなチルの文化を広げたい。



チルをやってみて

運営って難しい！！(笑)チルって一体何なのか、何を求められているのか、説明が難しい。声をかけて立ち寄ってもらって、相手の様子を見ながら声をかける。話したそうな人とは一緒に話し、ただ居たいだけの人にはそっと見守る。隣に存在するって役割。人によつてのニーズが違って、その思いを知ることから始まる。栄っていうエリアの特性が運営の難しさを感じる。地域の根深さは若者は知らないし、世の中の地域の創り上げを知らない世代が文化を理解する。まちはどのように作られるのか、チルを運営してすごく考えた。友だちが欲しい、仕事が上手くいかない、って話がポロッと出る場。



Special Thanks for Artist /



クリエイティブ・リンク・ナゴヤ

クリエイティブ・リンク・ナゴヤは、アートを通じて社会課題に向き合う試みの一つとして、「#栄でチルする?」に約半年間、3組のアーティストと一緒に参加させていただきました。アート活動には、自分がいる世界に対する違和感を目に見えるように表現したり、作品を通じて感覚を共有したりすることも含まれるので、愛知PFS協会さんが実施されている、この世界の中で居場所を見つけるためのきっかけづくりの活動にもつながると思いました。アーティストとの活動を通して、「#栄でチルする?」が、居場所づくりにとどまらず、栄に集う人たちの文化の発信へとつながっていくことにつながっていけばいいと思います。これからも「#栄でチルする?」を応援しています。



設楽陸

少年少女とのVRを通じてのコミュニケーションと彼らが描くVR絵画には大変感化され、絵の自由性を改めて感じました。また野外で行うアートイベントに多くの人々、特に美術に縁もなかった方々も巻き込んで展開できた事にアートの新しい可能性を見ました。また何かの機会にPFSさんと一緒にアートでイベントができると嬉しいです。



宮田明日鹿

3回参加して10代の人たちと少しだけ手を一緒に動かすことを通して話しました。家族に教えてもらったことがある人、はじめての人も一緒に手を動かしました。回数を重ねながら何ができるのか自分たちから動能的になりオアシス21にも足を運び、PFSさんの声かけしている姿を知れたこともとても学びになりました。こういう場所が継続的に続いていくと誰かの居場所になってくれるといいなと感じました。



am

今回、「#栄でチルする?」に弾き語りで参加させて頂きました。とっても暖かく優しい雰囲気包まれた空間で、こんな素敵な居場所作りがあるんだと私自身とても感動しました。このような居場所作りがもっともっと広まって欲しいなと思います!!



Shogo

私は演者として出演させて頂いたのですが、スタッフの皆様がどんな時もとにかく温かく出迎えてくださる素敵な場所です。自然の風を感じ、ハンモックに揺られ、音楽やアートも楽しめるどころよりも「チル」できる最高の空間だと感じました!「#栄でチルする?」をきっかけにこれからも沢山のの人に希望と感動を与え続けてください!またプライベートでもフラッと「チル」しに行かせて頂きます!!



トーチカ

人々はバンデミックにおいて物理的に離れていても、バーチャルでつながりを保つ方法を再考させられました。それは、バンデミックによって物理空間に肉体を置く居場所を失ったとも言えるでしょう。今回の活動で私たちは物理的な空間の中で、アート活動を通して非言語コミュニケーションで場づくりをすることを軸に置きました。街中で出会うさまざまな背景を持つ人々がワークショップを通して共感し合える言語で自由で安心できる空間をPFSさんと一緒に生み出せたと思っています。



みずまる

こんにちは!みずまるです。「#栄でチルする?」を知ったのは、普段ライブ活動を応援してくださる方から、教えてもらったのがきっかけでした。去年出演させて頂き、素敵なライトアップや、キャンプチェアやベンチもあり、誰もがふっと立ち寄れるようにできていて、そこで歌も加わって最高に「チル空間」でした。私は、このイベントは楽しむだけではなく、悩みがある子ども・若者の相談や居場所を作りとして開催しているところにとっても心を惹かれました。是非皆さんもふらっと参加してみてくださいね☆



TORAT

野外で澄んだ空気を感じながら音楽を楽しめる素晴らしい機会になりました。スタッフさんも温かく迎え入れて下さり、最後まで笑顔の絶えない空間でした。より多くの人の居場所となれるよう、今後とも力添えさせて頂きたいと思います!

「#栄でチルする?」で
ライブパフォーマンスをしてくださった
アーティストの皆様からコメントをいただきました。
チルしに来た人の心をぎゅっとつかむパフォーマンスを
届けていただきありがとうございました!!

Special Thanks for Public /



名古屋市 子ども青少年局 子ども未来企画部 青少年家庭課 青少年自立支援係

①印象的なチルの場面

相談機関の方からの紹介で、重点期間中、毎日利用いただいていた方がいましたが、重点期間の最終日に、それまで利用していた相談機関の方が「チルする」の場に来て、1時間くらい話をされていました。普段と違う屋外という空間で、自分の気持ちが話しやすくなったのかなと思い、他にはない、屋外での居場所の意義を感じました。

②実施して感じたこと

利用の仕方や利用時間は各自違いますが、それぞれがゆったり、ゆったりと過ごしている事が多かったかと思います。犯罪被害の未然防止にすぐに繋がる訳ではありませんが、繁華街において、このような場所が若者の居場所に定着していけるとよいと感じています。

③若者に向けたコメント

その場所を居場所と感じるかどうかは、若者皆さんが決めることであり、どう過ごすか、その場をどのようにしていきたいかは、皆さんの主体性が必要となってきます。この「チルする」の場が、これから皆さんの本当の居場所となるように支えていきたいと思っています。

①一緒にやってみてどうでしたか?

わたしたちは、普段名古屋駅で子ども若者に声かけをしています。栄駅周辺は、広場や公園、オアシス21など魅力的な公共空間が整い、既にコミュニティが形成されています。そこに介入し、今いる場所から子ども若者に移動してもらい、サービスの利用を促すことの難しさを感じました。

②「#栄でチルする?」に期待することは?

メリットで誘導するよりも、信頼関係を築くことの重要性を再確認しました。しかし、短期間で成果をあげるには、メリットで誘導するしかありません。単年度事業で単発的にかかわる場合、出会って終わりにしてしまうからです。長期的な視点で取り組み、取り組み自体を子どもや若者に知ってもらえるようになると思います。

③「#栄でチルする?」でやってみたいことは?

アウトリーチは、すべての子ども若者に教育と福祉の提供機会を創り出す活動だと感じています。活動内容そのものを変えるよりは、活動場所にこだわりたいと思います。たとえば、大型商業施設やJR構内、地下街等、多くの人が利用しやすく、好立地の場所で活動してみたいですね。



特定非営利活動法人 全国こども福祉センター



特定非営利活動法人 こどもNPO

①一緒にやってみてどうでしたか?

楽しくと言っては誤解を生むかもしれませんが、期待感と緊張感を持って参画させて頂きました。普段と違った環境で、私たちがどんな働きや役割を持っているのか再確認する機会にもなりました。チルは私たちの言語にすると、「夜に!街中で?プレーパーク(外遊び)」って感じてした。

②「#栄でチルする?」に期待することは?

子ども・若者の声を聞いて、事業の組み立てや展開が成されていくことを望みます。これこそ「参加する権利」ですね。子どもに関する事業を展開する時には、子ども自身にもそのプロセスや決定に携わることができる仕組みを持つべきと国や法律でも言われています。

③「#栄でチルする?」でやってみたいことは?

私たちの児童館(指定管理)にて、中高生の居場所づくり事業の拡充をモデル的に実施しています。街中で展開される事業と並行して、自らの地域にも居られる場所、戻ってこられる場所をつくっていききたいと思います。チルには「緑区にもあるよ!週3回やってるし、おいでよ。」なんて声をかけに行きたいですね。

①一緒にやってみてどうでしたか?

歓楽街の真ん中にある公園での定番の活動場所と違う名古屋のランドマークであるテレビ塔のすぐ横での活動は、相談などの直接的な支援活動ではなく広報啓発的な役割を担えたのではないかと感じました。

②「#栄でチルする?」に期待することは?

街角保健室はアウトリーチ(出会いに行く)型活動の典型であり青少年支援では特に有効な活動形態だと確信していますが、「#栄でチルする」を機に行政が益々アウトリーチを推進されることを期待しています。

③「#栄でチルする?」でやってみたいことは?

行政が主催したこの企画との連携をより活発にして、お互いの利用者さんに情報を共有できるようにしたいと思っています。



街角保健室☆ケアリングカフェ